

成長したかっいたら経験せよ

今、一年技術の授業では、木材を使ってその特性や加工の仕方方を学んでいます。授業をのぞくと、一年C組の生徒たちがのこぎりを使って、練習用の木材を切断しようとしていました。私は興味深く思って、しばらくそこに居座ってしまいました。けがをしないように細心の注意を払って授業は進みました。教科担任のK教諭も、夢中になる生徒たちを想定して、予想される危険性について生徒たちに的確に指導していました。「けがしたら大変だから、のこぎりは……」と臆病になりました。が、やはり「習うより慣れろ」です。経験することで生徒たちは多くを学び、成長していきます。

生徒たちを待ち受けていたのは、切断の難しさです。のこぎりで木材を切るといいう、ただそれだけのことですが、思うようにはなかなかいきません。まっすぐ切断しようと思っても、のこぎりを動かせば動かすほど大鋸屑が溜まり、切断線が見えなくなります。吹き飛ばせばよだけのことですが、切断することに一生懸命になってしまっている生徒たちはそのまま切り進めます。結局、まっすぐ切ったはずなのに、線からずれて切れてしまいました。

のこぎりの位置と体の中心がずれているために、のこぎりが木材に直角に入らず、斜めに傾いたまま切断が進みます。結局袈裟懸けに切れてしまい、切断面を横から見ると地層のずれのようになっていました。

もうすぐ切断できるといふときになっても、ペースが落ちません。のこぎりの勢いを最後までキープしたまま切断が進みます。のこぎりをゆっくり小刻みに動かして切り終えれば、切断面は美しいままですが、勢いそのままであるがために、木材が縦に裂けてしまいました。

どれも微笑ましい姿でした。のこぎりを使い慣れていない生徒たちにとって、これがスタートラインです。うまくいったりいかなかったりを繰り返しながら、少しずつ要領を覚え、上達していきます。こういう時の生徒たちの目は輝いています。実際に自分でやってみたり、うまくいかない現実を目の当たりにしたりするその経験が彼らを大きく成長させるのだと思います。

「かわいい子には旅をさせろ」という言葉が日本にはあります。これは大人サイドの言葉ですが、生徒サイドから表現すれば「成長したかっいたら経験せよ」ということになるのかな。教えてもらうより、やってみるの方が、多くのことが学べるかももしれませんね。

(六月九日 記)

